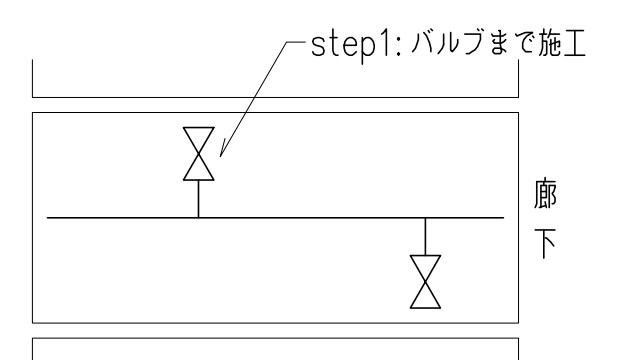
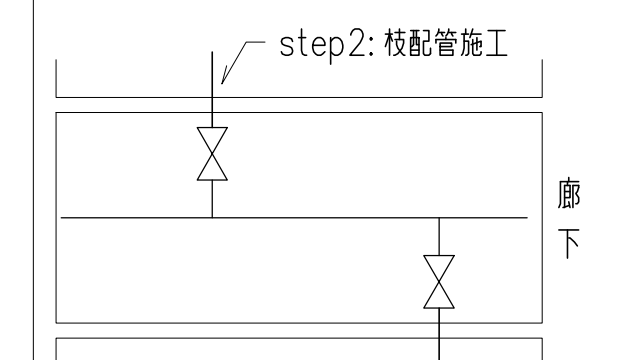
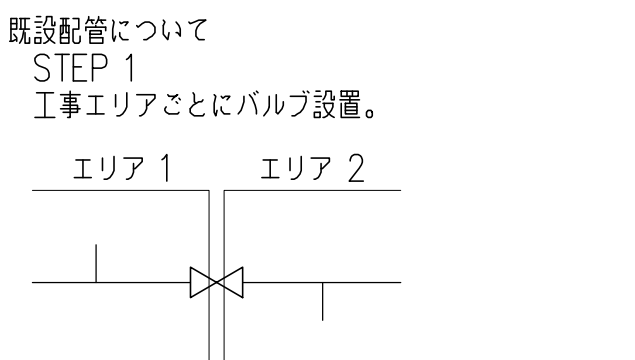
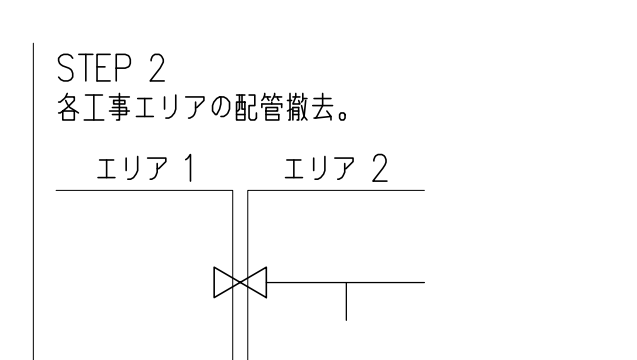
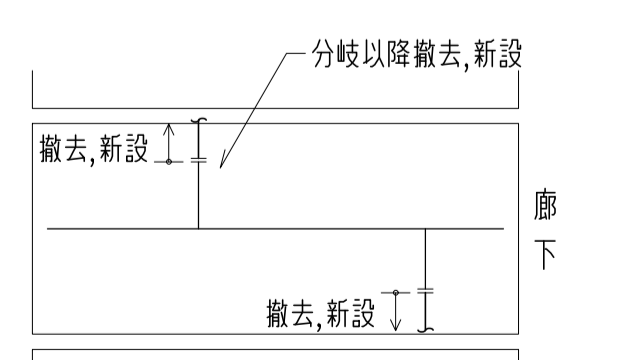


章	項目	特記事項	14) 検査	15) 工事区分	16) 提出書類	着工時	工事中	
1.	空調設備概要	○1) 熱源設備 ○2) 空調設備 ○3) 排煙設備 ○4) 自動制御 ○5) その他	<p>(<input type="checkbox"/> 印の付いたものを適用する) (概要を示すもので仕様を特定するものではない)</p> <p>□冷凍機 (<input type="checkbox"/> ターボ <input type="checkbox"/> スクロール式 <input type="checkbox"/> 吸気式 <input type="checkbox"/> スクリュー式) □直燃冷水発生機 (<input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 油) <input type="checkbox"/> 蒸気式冷水発生機 □温水ボイラ (<input type="checkbox"/> 鋼製 <input type="checkbox"/> 鋼鉄製 <input type="checkbox"/> 減圧型) □蒸気ボイラ (<input type="checkbox"/> 鋼鉄製 <input type="checkbox"/> 炉筒煙管式 <input type="checkbox"/> 貫流式) □ヒートポンプ (<input type="checkbox"/> スクロール式 <input type="checkbox"/> スクリュー式 <input type="checkbox"/> 氷蓄熱ユニット)</p>					

2.	给排水衛生設備概要	■1) 給水設備 ■2) 給湯設備 ■3) 排水設備 ■4) ガス設備 ■5) 消火設備 ○6) 浄化槽設備 ○7) 厨房設備 ■8) その他	<p>(<input checked="" type="checkbox"/> 印の付いたものを適用する) (概要を示すもので仕様を特定するものではない)</p> <p>■1) 給水設備 飲料水 (<input checked="" type="checkbox"/> 市水 <input type="checkbox"/> 井水) 雑用水 (<input checked="" type="checkbox"/> 市水 <input type="checkbox"/> 井水 <input type="checkbox"/> 中水 <input type="checkbox"/> 雨水 <input type="checkbox"/> 工事用水) □水道直結口 <input type="checkbox"/> 高置タンク式 <input type="checkbox"/> 圧力タンク式 <input type="checkbox"/> ポンプ圧送式</p> <p>■2) 給湯設備 □個別式 -- 熱源 (<input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 蒸気) □貯湯式 □瞬間式 □ヒートポンプ式 □中央式 -- 熱源 (<input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 蒸気 <input type="checkbox"/> 油) □ヒートポンプ式</p> <p>■3) 排水設備 ■ 建室内の汚水と雑排水 (<input type="checkbox"/> 分流式 <input type="checkbox"/> 合流式) ■ 再利用装置 (<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無) ■ 汚水 (<input type="checkbox"/> 公共下水道 <input type="checkbox"/> 浄化槽) ■ 雑排水 (<input type="checkbox"/> 公共下水道 <input type="checkbox"/> 浄化槽 <input type="checkbox"/> 割溝) ■ 雨水 (<input type="checkbox"/> 公共下水道 <input type="checkbox"/> 浄化槽 <input type="checkbox"/> 割溝)</p> <p>■4) ガス設備 ■ 都市ガス <input type="checkbox"/> LPG</p> <p>■5) 消火設備 □屋内消火栓 □屋外消火栓 □連結給水管 ■ スプリンクラー □連結散水 □水噴霧消火 □泡消火 □炭酸ガス消火 □粉末消火 □フード用簡易自動消火 □防火水櫃 (建築工事) ■ 消火器 □N2 □新ガス</p> <p>○6) 浄化槽設備 □大臣認定品 <input type="checkbox"/> 築造型 (個別認定品)</p> <p>○7) 厨房設備 □電気 □ガス</p> <p>■8) その他 ■ 医療ガス設備 ■ 危険物や毒物などの保管はなし</p>	■ 14) 検査 本工事の施工にあたって、監理者の検査を受け、承諾を得なければならない項目は下記のものとする。 ■ 指示された材料、製品および機器の検査 ■ 指示された工完了時点での中間検査 ■ 竣工検査	■ 15) 工事区分 取り合い工事区分は、別紙工事区分表とする。 設備機器の位置、取り合いなどの検討できる資料を関連機器と調整の上、総合図を提出し、監理者の承諾をうける。	■ 16) 提出書類 工事の準備・着工・進行・完成に際して、下記に指示する図書については延滞なく作成し、監理者に提出すること。 提出部数 ■ 3部 (発注者・監理者用・施工者控用) □ 部数は監理者の指示による	■ 着工時 ■ 工事請負契約書 ■ 請負代金内訳書 ■ 損害保険証書写 ■ 工事着手届 ■ 主任技術者および現場代理人届 ■ 専門技術者届 ■ 工事現場編成届 ■ 現場常駐職員届 ■ 工事工程表 ■ 仮設計画図 ■ 下請業者承諾および一覧表 ■ 機器・材料製造者承諾および一覧表 ■ 工事記録報告書 ■ 日報 ■ 週報 ■ 月報 ■ 工事進捗度 ■ 就業状況 ■ 搬入材、使用材状況 ■ 工事記録写真 ■ 施工計画書 ■ 施工要領書 ■ 施工団・機器製作図 ■ 総合図 ■ 試験・検査報告書 ■ 現場打合せ記録 ■ 申請・届出書類一覧表および同控 ■ 出来高調査および承諾書・請求書 ■ 変更工事見積書 ■ 自主検査報告書 ■ 工完了届 ■ 竣工引渡書および受領書 ■ 図書明細書および受領書 ■ 検査済証 ■ 使用許可書 ■ 申請書・届出書 ■ 保証書 ■ 機器取扱説明書 ■ 備品類明細書および受領書 ■ 鍵および鍵箱 ■ 備品 ■ 予備品 □ 工具および工具箱 ■ 保安工事図 ■ 竣工団 ■ 原因 ■ 製本 ■ A3判縮小製本 ■ 修正CADデータ (CD-ROM) ■ 施工団製本 □ 竣工写真 (指定アルバム) (DWG・DXF・JWW)	■ 工事中 ■ 17) 工事保証 竣工引渡し後、かしの担保期間内において工事不良のため生じた損害は、請負者の負担において、迅速、丁寧な復旧するものとする。
----	-----------	--	---	--	---	---	--	---

3.	一般共通事項	■1) 適用 ■2) 定義 ■3) 仕様指示 ■4) 優先順位 ■5) 疑義に対する協議と記録 ■6) 官公署等への手続き ■7) 別契約の関連工事 ○8) 支給材料 ■9) 発生材の処理 ■10) 第三者損害に対する配慮 ■11) 材料 ■12) 材料試験 ■13) 立会い	1) 特記事項のうちで選択する事項は ■ 印を適用する。 1) この特記仕様書は本工事の仕様についての特記である。 2) ここで述べる設計図書とは質疑回答書・現場説明書・特記仕様書・設計図書の総称である。 1) 本工事の仕様について設計図書に記載 (指示) のない場合は下記仕様書の最新版による。 ■ 公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編) (社) 公共建築協会 発行) ■ 公共建築改修工事標準仕様書 (機械設備工事編) (社) 公共建築協会 発行) (以下、「標準」という。) ■ 建築工事標準仕様書・同解説 (社) 日本建築学会 発行) (以下、JASSという。) 本工事の仕様適用に対する優先順位は下記の通りとする。 ① 質疑回答書 ② 現場説明書 ③ 特記仕様書 ④ 設計図書 ⑤ 標準およびその他の仕様書 設計図書に不備・不明の箇所を発見し、または疑義が生じたときは直ちに監理者と協議し、その協議の結果について監理者の認証付の記録書を作成しておくものとする。 本工事に関係ある法令 (条例等を含む広義の法を指す。以下、同じ) を遵守し、必要ある届出、手続きはすべて請負者が行う (但し、建築確認申請は除く) 。 その手続きに関する費用は請負者負担とする。 別契約の関連工事については、監理者の指示により、当該工事関係者と協力し、工事全体の円滑な進捗を図る。 支給材料・機器および貨品は、下記リストによる。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 指示された場所に整理 (残材調書を添えて引渡す。) ■ 産業廃棄物として、関係法令に従い、かつ行政の指導をうけ承諾をうけた場所に搬出適切に処理。 本工事の施工により騒音、振動、塵埃、地盤沈下、道路損傷、通行障害等近隣に及ぼす公害か発生しないよう、各種法令を遵守し関連官公庁の指導をうけて進めること、万一損傷その他の危害が発生した場合は、請負者の負担により速やかに補償および補償をすること。 使用する材料および寸法等は JISS および JASS の規格品とし本特記仕様書で指定されたメーカーおよび材料以外を使用する場合は同等とし、予め監理者に申し出て承諾をうける。 1) 本工事に使用する建材は、原則として「ゼロアス」の製品・資材とすること。 「ゼロアス」: アスベスト含有0% 2) 代替品が無い等の理由により、1) 以外の製品・資材を使用する場合には、監理者の承諾を得ること。 3) 竣工引渡し書類の「環境配慮事項まとめファイル」にゼロアスをも含めて MSDS (製品安全データシート) を入れ、監理者に内容確認の上、施主へ提出・報告する。 工事に使用する材料のうち、設計図書に定められたもの、または監理者の指示のあるものは、公的試験所または監理者の認める試験所で試験を行い、その試験成績書を監理者に提出して、確認を受けなくてはならない。なお、これに要する費用は請負者の負担とする。 本工事の施工にあたって、監理者の立会いを受けなければならない項目は下記のものとする。 ■ 指示された施工または試験 ■ 各法令に基づく諸官庁の検査	■ 18) 現場代理人の資格 つぎの資格を有するものとする。 ■ 管工事施工管理技士 (□1級 □2級) □ 建築設備士 ■ 19) 技能士の適用 本工事に当該職種別技能士を適用する。 ■ 配管技能士 ■ 冷凍空調機器施工技士 ■ 熱絶縁施工技能士 (保温工事) ■ 建築床金技能士 (ダクト製作及び取り付け) ○ 設ける (<input type="checkbox"/> 敷地内 <input type="checkbox"/> 敷地外) <input type="checkbox"/> 設けない □ 引合仕様書による (備品 :) ■ 20) 監理者事務所 ■ 21) 工事用水 施設内既存の施設 □ 利用できない ■ 利用できる (<input type="checkbox"/> 有償 <input type="checkbox"/> 無償) □ 引合仕様書による ■ 22) 工事用電力 施設内既存の施設 □ 利用できない ■ 利用できる (<input type="checkbox"/> 有償 <input type="checkbox"/> 無償) □ 引合仕様書による 構内に設けることが ■ できる □ できない □ 引合仕様書による ■ 23) 工事用仮設物 ■ 24) 残土処分 ■ 構外に搬出適切処理 □ 構内指示の場所に敷崩し整地 □ 構内指示の場所に堆積 ■ 25) 埋め戻し ■ 根切り土の中の良質土 (ただし管の周囲は山砂) □ 山砂の類 ■ 26) 特記事項 ■ 設計図書内の製品名称・型番は参考であり、同等品以上の機器を選定すること。 ■ 工事エリア内は火気厳禁とする。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	■ 8) 構造安全性 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして以下の構造方法による。 ■ 建築設備 (昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれのないものとする。 ■ 屋上から突出する水櫃、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。 □ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けたものを除き、90cm以下とすること。 □ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、 ■ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。 ■ 建築物の部分貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等、有効な衝撃損防止のための措置を講ずること。 ■ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可とう継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。 ■ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。 ■ 法規第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水櫃、煙突その他これらに類するものについては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。 ■ 給湯設備は、支持構造部及び緊結金物を腐食又は腐朽のおそれのないものとするほか、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。	■ 9) 保温 (1) 「標準」によるほか下記による。ただし各工事項目で別に指定されたものは除く。 又、保溫材は原則としてグラスウールとする。 (2) ダクトの保溫外皮は下記による。 <table border="1"><tr><td>屋倉庫・書庫</td><td>■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網</td></tr><tr><td>内各階機械室</td><td>■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網</td></tr><tr><td>露主機械室</td><td>■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網</td></tr><tr><td>出居室・廊下など</td><td>■カラー亜鉛鉄板 □アルミニウム板</td></tr><tr><td>屋内隠ぺい、DS内</td><td>□アルミホルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス</td></tr><tr><td>屋外露出、多湿箇所</td><td>■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板</td></tr><tr><td>()</td><td>□ガルバリウム鋼板</td></tr></table> (3) 配管の保溫外皮は下記による。(冷媒管は除く) <table border="1"><tr><td>屋倉庫・書庫</td><td>■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網</td></tr><tr><td>内各階機械室</td><td>■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網</td></tr><tr><td>露主機械室</td><td>■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網</td></tr><tr><td>出居室・廊下など</td><td>■綿布 □アルミガラスクロス</td></tr><tr><td>屋内隠ぺい、DS内</td><td>□アルミホルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス</td></tr><tr><td>屋外露出、多湿箇所</td><td>■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板</td></tr><tr><td>()</td><td>□樹脂製ダクト □ガルバリウム鋼板</td></tr></table>	屋倉庫・書庫	■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網	内各階機械室	■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網	露主機械室	■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網	出居室・廊下など	■カラー亜鉛鉄板 □アルミニウム板	屋内隠ぺい、DS内	□アルミホルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス	屋外露出、多湿箇所	■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板	()	□ガルバリウム鋼板	屋倉庫・書庫	■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網	内各階機械室	■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網	露主機械室	■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網	出居室・廊下など	■綿布 □アルミガラスクロス	屋内隠ぺい、DS内	□アルミホルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス	屋外露出、多湿箇所	■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板	()	□樹脂製ダクト □ガルバリウム鋼板
屋倉庫・書庫	■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網																																	
内各階機械室	■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網																																	
露主機械室	■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網																																	
出居室・廊下など	■カラー亜鉛鉄板 □アルミニウム板																																	
屋内隠ぺい、DS内	□アルミホルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス																																	
屋外露出、多湿箇所	■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板																																	
()	□ガルバリウム鋼板																																	
屋倉庫・書庫	■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網																																	
内各階機械室	■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網																																	
露主機械室	■アルミガラスクロス □アルミホルペーパー+カラー金網																																	
出居室・廊下など	■綿布 □アルミガラスクロス																																	
屋内隠ぺい、DS内	□アルミホルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス																																	
屋外露出、多湿箇所	■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板																																	
()	□樹脂製ダクト □ガルバリウム鋼板																																	

5.	病院改修の留意点	■1) 騒音・振動対策 ■2) 臭気対策 ■3) 工事中の環境汚染管理 ■4) 工事中の作業時間	医療を行っている箇所に隣接している工事範囲では十分な騒音対応を行う。 ■ 工事範囲全域 (<input type="checkbox"/>) ■ 騒音発生工事は土日工事とする。 ■ 工事範囲では不要な音を立てない。特に下階への振動発生に留意する。 ■ 金属の切断などは改修工事範囲では行わない。外部の指定された場所で行う。 ■ 解体時など床に解体材を投げない。すべて手渡しとする。 ■ 7カ等の施工は事前に設備と調整し施工計画を作成する。その後病院の了承を得、施工する。 ■ 7カはすべてアイソトロン振動工法とする。 騒音と同様に十分な臭気対策を行う。 ■ 現場塗装は原則行わない。 ■ 木C/Lは原則工場塗装とする。 粉塵の拡散防止を考慮した工事中の環境汚染管理を行う。 1) 工事区域外への塵埃の侵入の防止。2) 患者区域への塵埃の拡散の防止。 3) 工事エリア内の空気管理を主要な項目とする。 1 防護壁の設置 ■ 適合範囲：工事範囲全域 工事区域から患者ケア区域への塵埃の進入を防止するため防護壁を設ける。(詳細図参照) 床~天井面： ・ LGS65下地石膏ボード二重貼り (片面) ・ LGS下地は床~天井面に片面テープ貼り ・ 床・壁・天井との取り合い部はテープ貼り (塵埃い拡散防止) ・ 工事に用いる二重貼り 天井内： ・ 床・壁・天井との取り合い部はテープ貼り (塵埃い拡散防止) 扉： ・ 原則設けない。設ける場合は鋼製W800xH2,000程度。 2 工事区域内の空気管理 ■ 適合範囲：工事範囲全域 a. 工事区域内は常に陰圧を保つ。工事区域内の窓は原則密閉とし、工事区域内の排気ダクトを患者ケア区域から離れた場所から開放する。 b. ダクト開放場所を決定するために患者ケア区域の空気取り入れ口が近くにないか確認する。 c. 工事区域内のダクト開放口には必要に応じてHEPAフィルターを設置する。 d. 工事区域内に外部から入室する場合、患者ケア区域の窓が開放され塵埃が流入しないようにする。 7月中旬~8月末 (夏休み期間中) は、外来患者数が増加するため、原則平日昼間の作業を禁止する。	■ 10) はつり 既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。構造上影響を及ぼさないよう適切に処理を行うこと。 ■ 11) 他工事との取り合い スリーブ、箱入りその他他工事との取り合いは、別紙工事区分表によるものとし、施工に支障を来さない時期までに、必要な位置、大きさなどを明記し、監理者と打ち合わせる。 ■ 12) 機器塗装色の指定 原則として製造者標準色とするが、下記の機器については塗装色の指定を行う。 □ 有圧扇フード □ 空調屋外機 ■ 換気用ベントキャップ □ 消火栓ボックス ■ 13) 機器配管等の取付 ■ 屋外露出部の機器・配管等取付のための支持架台・金物は、溶融亜鉛メッキとする。同用ホルド・ナット等は、ステンレス製とする。取付に際しては、異種金属接触を確実にすること。 ■ 機械室及び屋上の床上配管には、点検が容易に出来るように監理者の指示により部分的にデッキ等を取付けること。 □ 蓄熱槽の清掃、水張り試験後、満水状態で水質測定を行い、基準値を満足していることを確認すること。 □ 蓄熱槽系の配管フラッシングは、蓄熱槽以外フレッシュな用水を確保し、又、蓄熱槽以外の排水先を確保して行うこと。 天井点検口裏面に点検用途の表示を行う (関連用途をまとめること)	■ 6. 改修工事のステップ 新設配管について STEP 1 棟ごとのメイン配管を施工。 廊下部分の各分岐枝配管を施工、バルブ止めとする。  STEP 2 各工事エリアの該部分のバルブ以降を施工。 衛生器具等へ配管接続。  既設配管について STEP 1 工事エリアごとにバルブ設置。  STEP 2 各工事エリアの配管撤去。  既設配管に関して、原則既存不使配管は、残置とする。 水抜き等を通切りに、構部ブラグ止めとすること。分岐部分についても切断し、ブラグ止めとする。 主管に対して、死に水が影響しないように、残置すること。 新設ダクトについて 棟ごとのメインダクトは既存利用とし、当該エリア改修時に各分岐以降を更新とする。 分岐部分のVDは開放とし、工事対象エリア外の風量バランスに影響のないよう工事を行うこと。  既存利用ダクトに関して、工事着手前にダクトの汚れが運用に支障をきたす恐れが想定される場合、監督員に報告して協議を行うこと。
----	----------	---	---	--	---

1. 設備概要

- 1-1 酸素配管設備
酸素の供給は、既設配管より分岐し、これより図示された各部屋の配管端末器へガスを供給する。
- 1-2 吸引配管設備
吸引の供給は、既設配管より分岐し、これより図示された各部屋の配管端末器へ供給する。
- 1-3 窒素配管設備
窒素の供給は、既設配管より分岐し、これより図示された各部屋の配管端末器へガスを供給する。
- 1-4 区域別遮断弁（シャットオフバルブ）
区域別遮断弁は、ボックス内に黄銅製ボールバルブを設け、バルブの開閉操作が迅速に出来る構造とし、取付高はバルブの中心でFL+1500mmを標準とする。
また、特殊診療部門（4階OPホール、ICUスタッフステーション室等）の区域別遮断弁は、二次側に緊急導入口を備えるものとする。

- 1-5 配管端末器（アウトレット）
配管端末器はガスの種別による着色が施されていて、保守点検用バルブ機能付きとする。
また、異なる種類のガスの誤接続を防止するためのガス別特定の構造とする。
配管端末器の種類は、壁取付型とする。

- 1-6 特記事項
工事の際は、ポータブルポンペを各ガス種（O₂,V,N₂）に対して1本ずつ用意し、病院機能を維持させること。

2. 配管工事

2-1 配管材料

ガスの種類	配管	継手仕様	備考
酸素	リン脱酸銅線目無管 (JIS H 3300 C1220T Lタイプ)	左記銅管による形成品	支持金具と銅管が直接接触しないよう銅管用吊金具を使用する。
吸引	ガスの使用区分に応じた着色熱収縮性チューブを	JIS H 3401 銅及び銅合金の管継手	
窒素	被覆したものとする。	JIS H 3250 銅及び銅合金棒C1100, C3602, C3712, C3771	

2-2 配管の支持間隔

呼称管径 (mm)	< 20
支持間隔 (m)	1.5 以内

曲部及び分岐箇所は必要に応じて支持する。

2-3 配管の識別表示

隠蔽部は着色熱収縮性チューブ被覆銅管を使用する。各識別色は下記による。
機械室露出部分は下記の識別色にて塗装を行う。

配管色別	酸素	吸引	炭酸ガス
	緑	黒	橙

2-4 配管のろう付け

銅管のろう付け作業は、配管内部の酸化防止措置として、配管内に不活性ガス（窒素ガス）を送気しながら行うものとする。

2-5 配管方式

配管は、露出型アウトレットの壁立下げ配管（ダクトカバーにて保護）を除き、天井内隠蔽壁内埋込配管とする。

2-6 既設配管への接続

既設配管への接続工事、及び既設撤去工事については、事前にガス停止区域、閉止するバルブ、仮設供給方法について打ち合わせをすること。

3. 検査・試験

3-1 配管系統検査

配管工事完了後、各配管ごとに系統に誤りのないことを確認する。

3-2 配管気密試験

気密試験の圧力及び時間は下表による。
但し既設管との接続部は、吸引を除く配管で標準送気圧力での検知液による発泡漏れ試験とし、吸引配管は煙を吸い込ませる漏煙試験とする。

配管名	配管気密試験			総合気密試験（排気を除く）		
	圧力 MPa	時間 h	使用ガス	圧力 MPa	時間 h	使用ガス
酸素	1	24	窒素又は 清浄な脱脂 空気	0.4	24	窒素又は 清浄な脱脂 空気又は 吸引圧
吸引	0.5	2		-0.05±0.1	2	
窒素	1.5	24		0.9	24	

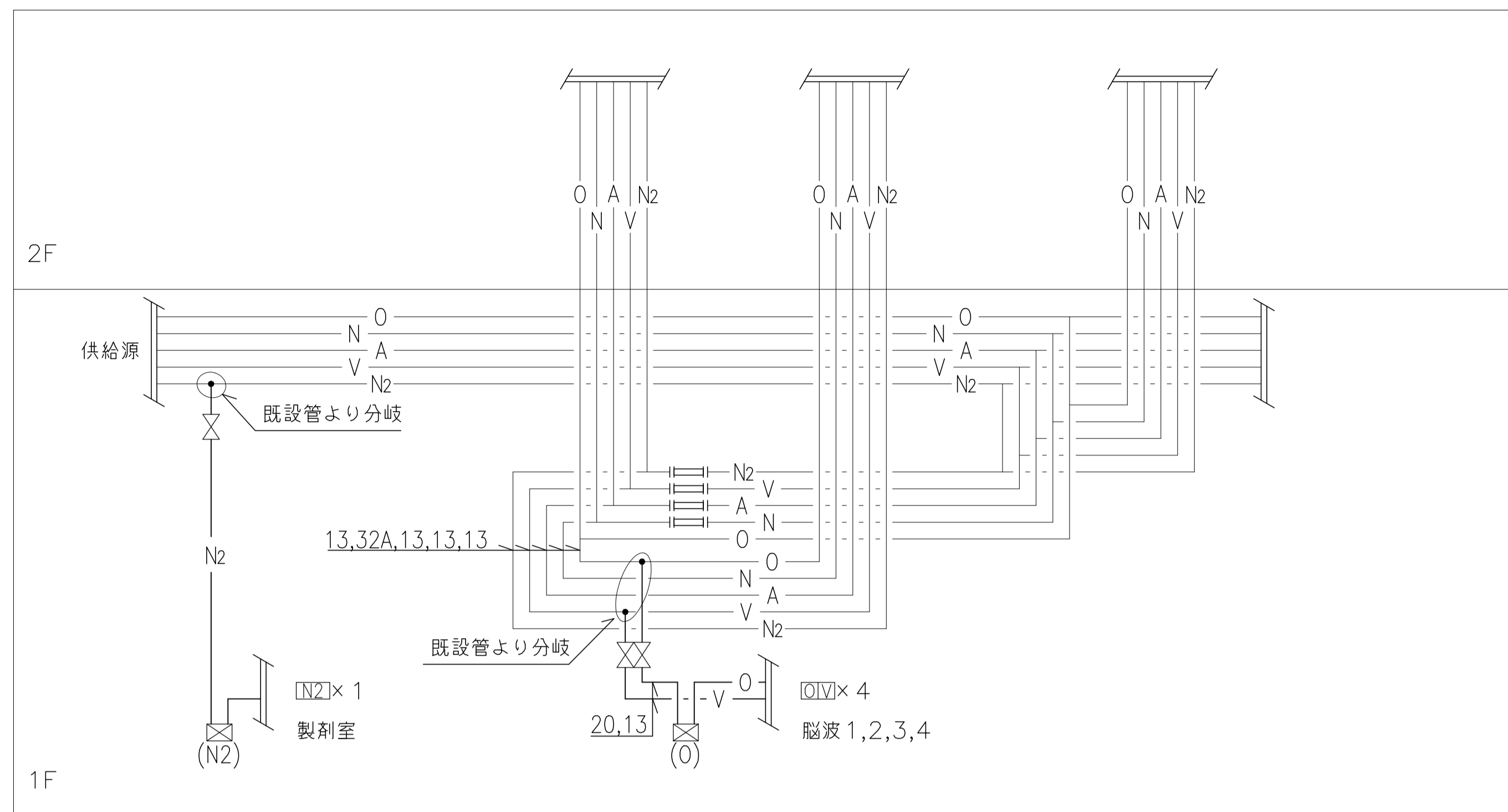
3-3 配管内清浄度検査

施工した配管内に微小物質の有無について検査する。但し、吸引配管は除く。

4. 工事区分

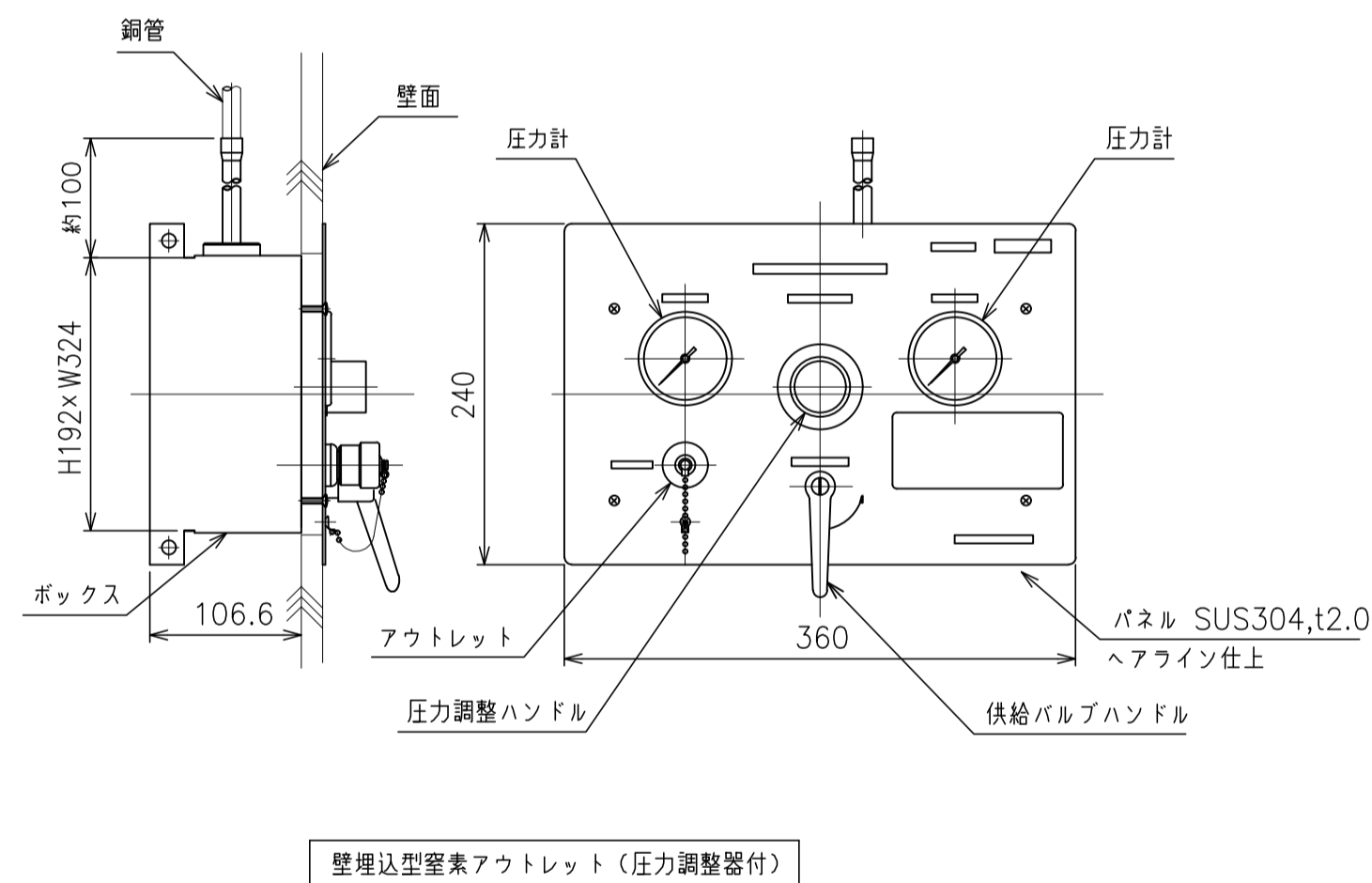
4-1 建築工事

- ・天井解体・復旧
- ・点検口

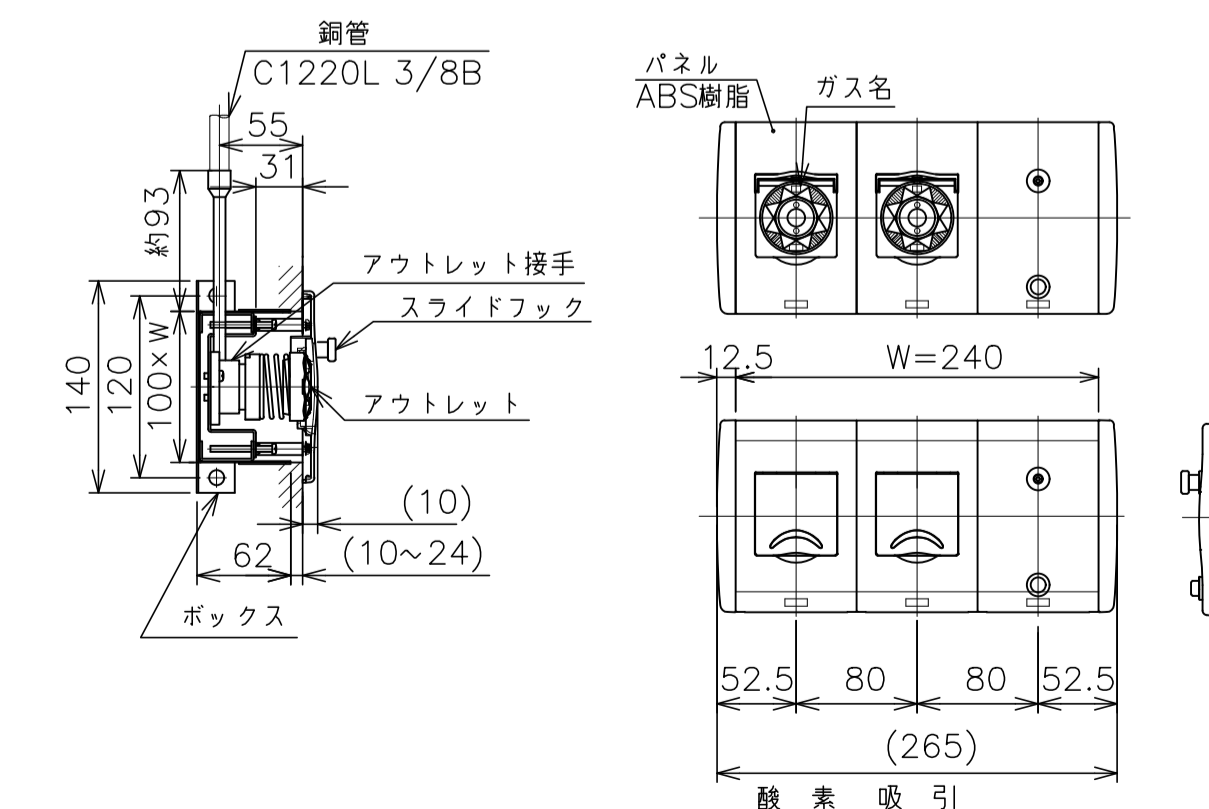


参考器具図

壁埋込型窒素アウトレット



壁埋込型アウトレット



凡例

記号	名称	備考
☒	シャットオフバルブ	埋込型
□V	2口壁型アウトレット	埋込型 (O,V)
□N ₂	窒素 圧力調整器付アウトレット	露出型
☒	系統用バルブ	
— O —	酸素配管	JIS H3300 C1220T
— V —	吸引配管	
— N ₂ —	窒素配管	JIS H3300 C1220T
— —	既設配管	
▨	撤去工事範囲	
☒	点検口	別途建築工事

壁埋込型シャットオフバルブ

